

發行兼編輯人 川崎文治
 印刷所 常盤每日新聞社

東京新聞

定部金貳錢
 郵税五厘
 廣告費 五段十二
 料字詰一行 五十錢
 日刊休 日曜大祭
 日祝日ノ翌 印刷所本報專屬 陽社

二十 月 廿三日 夕刊

ゼブラ自轉車購買會

●今回は何時でも御入會が出来升
 ……景品付…
恵比壽屋商店
 平南町(電話呼三四四番)

●おいしいものは
 誰方でもた好きです
 早くマツモトの甘納豆を
 召上り下さいまし

目丁四町平
ヤトモツマ
 番四一二話電

平町四丁目
関内薬局
 電話四拾番

買好イ店
 品安ク
 良ク

ナリミルク

玉の愛兒も
 樂々肥る
 メリミールク

製造元 東京東
 子の丸
 社子子
 一店約特
 目「四町平
 ヤトモツマ

勸業博覽會事務所
 平町南町九昌軒本店内

寄書

近事雜觀

展望臺生

陪審法で有名な江木衷博士がこんどは事あらうに普選亡國論を唱へ出しそのパンフレットを朝野名士の許に送つて寄越したそうだが未だその内容を見ない筆者は容易く賛成も出来なければ反對も出来ないがしかしこれを論理的に批評すれば陪審法は裁判制度に一種の民衆氣分を加味したものでその前提として普選を肯定して居ると斷言出来る

是非

粹で上品な履物を
 御求めの際は
 平町二丁目 電話一五六番
三井履物店

何事にも一理屈を捏ねなければ已まぬ博士の事だから定めし名論卓説が御座らうが労働者に選舉權を附與したりとて直に我邦が赤化し亡國となるとはチツト杞憂過ぎはしないか

○英國の労働黨が天下を取つたとして今更のやうに吃驚仰天するに當らないじやないかそれほど普選が怖いのなら何故に陪審制度のやうな民衆的のものを實行するのとに熱中されたか先づ博士の胸中を伺ひたいものだ

○曩に水銀から金が取れる事を發見して世界の人々を驚

嘆せしめた理學博士長岡半太郎氏の研究が一度新聞紙上によりて發表せらるゝやその反響は忽ちにして顯れ水銀礦を所有して居る天下の大山師ども毎日のやうに博士の許に手紙を寄せてはその買水方を強制しつゝあるそうなが

○何んぞ知らん博士の採金法といふのは多量の水銀中から僅かに小塊の金の粒を取る位が關の山でその費用は吾々の想像以上に多かゝるのだから山師どもには到底これは判る筈はない

移轉廣告

内外科
 皮華科
 入院應需
 見習看護婦二名聘雇
 希望者來談あれ

白銀町
新妻醫院
 電話(呼)五六九番

集募員店

眞面目な商人を養成仕るべく
 萬事家族的の待遇に候へば御希望の向きに依り
御本人の 給料、積立、方針、に
 付き御面談申上度く是非御申込み願上候
 尚ほ目下在學中に候へし場合は雇入方を豫約致し置くも差支へ無之候

平町鍛冶町(電話一二二番)
吉田屋吳服店
 吉田由三郎

建築ペンキ塗
 美術諸看板
 硝子金銀文字
 其他各種

平町四丁目
堂音大

露披御

獵銃製造工場

從來當地方ニ銃砲製造修理所ナク皆様ハ多額ノ費用ト御不自由トニ煩ハサレタ事ヲ遺憾ニ堪エマセンデシタガ弊店ハ平素ノ御高底ニ酬ヒ度ク存ジ萬難ヲ排シ横濱、東京各銃器工場カラ腕ノ勝レタル技術者ヲ招ギ工場ヲ新設致シマシテ各般獵銃、空氣銃ノ新調及修理ノ御要求ニ應ジ價格ヲ最モ低廉ニ日限確實、小修理等ハ御待合ノ内ニ調致シマスカラ何卒御用命ノ程ヲ御願ヒ申上マヌ尙業書カ電話デオ問合セ七次第御返事シマス

目丁一町平城磐
 内店藥火砲銃平社會資合
所造製砲銃邊渡
 番一四四話電

和

漆器器漆
和
 漆器器漆
 目丁一町平
 番五〇四話電

移轉急告!

郷土社

近刊新古本特賣
 古書籍高價買入

通場車停平

各濱漁業組合に 低資十萬圓を配當

此の吉報に石城七濱は
頗る活況を呈す

縣下の漁業組合は現在組合
數四十でその總額算十五萬
圓を算し大多數は漁業權の
行使をなす程度に止まつて
ゐるが石城四倉江名小名
濱の各組合は何れも漁獲物
の共同販賣並びに發動機關
用重油等の共同購入を行ひ
成績良好で殊に遠洋漁業が
百カイリ内外にまで出漁す
ることゝなつた結果漁船の
噸數は逐年増え、と共に
おほくの漁業資金を要する
ので低利資金の供給方を申
請中であつたが最近農商務
省から縣へ漁業低資十萬圓
の配當があつたので近く查
定の上供給さるべく四倉小
名濱では共同販賣並びに共
同購入事業にまた江名濱で
は漁業資金に充當し一層活
動する事にならうと

有權者減少 合計八千七百

石城郡内に於ける十月一日
現在の衆議院議員選舉人は
合計八千七百六十五人で昨
年より卅七人減少したと

全國的な 童謡聯盟

近時小學生の事故が多いの
を痛嘆し東京市松美佐雄氏
が主唱の下に巖谷小波、久
留島武彦氏其他の賛成を得
て新に日本童謡聯盟を組織
せしめ學校教育を助成した
いとこの事にて川崎本社長も
其委員を囑託された

施肥標準 調査

石城郡に對する本縣農事試
驗場の施肥標準調査は愈々
明年度から左記の原地試験
に移る等去十九日農試場
長來部し郡農會とも種々打
合を遂げた

職業別人口 農業が多い

石城郡職業別人口は十月一
日現在にて農業五萬五千九
百八十八人、工業五千四百

平窪勤儉協議

石城郡平窪村勤儉實行委員
大浦村長友、同狐塚、平
窪下平窪、高久村、高久
窪田村窪田、泉村泉、同
瀧尻、磐崎村西郷等

土木課長の 轉任は當然

土木課長の轉任に就いて
報知新聞は左の如く報
道して居る
本縣東土木課長が今回栃木
縣に轉任したのについては
東課長に對し主務省から何
等相談なしに轉任せしめた
もので東氏としても大不平
があるとの事だが東氏がこ
ゝに至つたのは大瀧發電の
問題もあんな騒ぎを起し少
からず香坂知事に心配を掛
け土木請負上についても從
來に餘り例のなかつたすき

炭礦へ出稼 收穫を終つて

例年收穫終了の時季より翌
春二三月頃へかけ所謂農閑
季を利用し縣内外各農村よ
り石城地方各炭礦へ季節的
出稼をする者少からず縣下

五十一人、商業一萬六千二
百五十一人、漁業六千二十
五人である
桑講習會は廿一日から三日
間同村小學校にて開く等
あるが講師は蠶業學校教諭
三浦信達氏である

伊東校長の排斥運動 教育指導上面白からぬ

突發の變災により巖に三名
の横死兒童を出した石城郡
磐崎村第一小學校に於ては
校長伊東芳松氏が比較的温
厚篤實の良教員なるに拘ら
ず氏の
進退行動 が餘りに
保守退嬰に過ぎるとして嫌
焉たる一部教員は陰然結束
して氏の施設に反對し一校
の和平を期し難く、延いて兒
童の教育指導上にも面白か
らぬ結果を招來するので伊
東校長は昨廿三日郡役所に
大越郡視學と會見後々報告
する處あり

小川江議員 補缺選舉執行

石城郡小川水利組合にては
來る一月十八日第一區下小
川選出議員白石長内第四區
草野村渡邊直次郎兩名死亡
の爲め補缺選舉を行ふと
妙齡の
女達を誘拐
東京方面から
入り込む

女達を誘拐 入り込む

最近平町附近に東京方面よ
り入込んで妙齡の女達を誘
拐しつゝあるとの噂頻りな
ので平署當局も極力警戒中
であるが飯野村大字北白土
どがあつて困るものです
また田の中に蛙の居るのも
恐ろしいものです、吸ひつ
かれた傷口から、病菌が入
り、さんでもない病氣にな
るごころか、ごうかすると
其の爲めに死ぬ事さへあり
ます、が、これを驅除する
には、これから澤山でる蜜
柑の皮を日に干した上搗い



蜜柑の皮で驅除劑

苗代に蝶がでますと、折
角丹精していくらか伸びた
かと思ふと、一夜のうちに
滅茶苦茶にされてしまふこ
ろがある

特定の 方面からで

にては伊達、會津方面より
最も多く縣外は山形、富山
等一二
之等の多くはその期間中致
々としてより多くの勞銀を
得べく極めて緊張したる勞
働に従事し在來の勞働者に
比しその能率遙かに優良な
ものあり何れも相當の
蓄積を
なし翌春融
雪の季を見計らつて引あぐ
るので之等の勞働が或る短
期間に限られ勞働能率の持
續上極めて永遠性を有せざ
る憾みはあるが前記の如く
その間は坑内外の
作業振
りが俄づく

郡醫師總會 來月十日に

石城郡醫師會にては來る一
月十日午後一時より平署樓
上にて總會を開くと
平窪火防督勵 石城
郡平窪村消防組にては廿一
日組員を召集、同村内各戸

赤井村の夜警 石城

郡赤井村消防組にては廿日
より毎夜大字に三名宛交替
にて夜警を開始した

坑夫の慘死 落盤の爲め

石城郡磐崎村大字藤原字湯
本居住佐賀縣生れ大日本炭
礦湯本坑夫夫藤崎喜一(四〇)
は昨日午後三時半頃坑内に
て作業中俄然坑天井落下し
壓し潰されて慘死したと

重大詐欺漢 平町に入込む

岩瀬郡濱田村生れ前科一犯
阿部松吉(三〇)は重大詐欺犯
人として目下捜査中である
が數日前平町地方に入り込
みたるものゝ如く目下平署
にて嚴重捜査中であると

募集 文藝其他投稿

て粉にして貯へて置きます
そうして來春になつてから
必要に応じて、このみかん
の皮の粉六分へ、家根うら
の、四分くらひ入れて、
よくかきませ、田の水を少
く低くして撒布しますと、
容易にこれを驅除すること
ができます。ほんどうによ
くきくそうです。

平町人事

- △出生
△紺町六六 森清治郎氏長女フヲ
子
△城地小路三三 菊地忠吉氏五男
信治
- △死亡
△杉平二〇 高田トメ(三八)
△四丁目三八 佐藤のぶ子(二)
- △平町六六 森清治郎氏長女フヲ
子
△城地小路三三 菊地忠吉氏五男
信治
- △立町五 山野邊泰藏氏三男三郎
- △死亡
△杉平二〇 高田トメ(三八)
△四丁目三八 佐藤のぶ子(二)